

【目的】

本研究では、夢追求型フリーターを対象として面接を行い、夢追求型フリーターの①アイデンティティについて、②職業選択について、③自己能力の認識について、④夢を追い続けられる要因について、検討することを目的とした。

【方法】

研究方法として、小杉(2003)の定義に基づいた夢追求型フリーターを対象として友人、知人に声をかけて探し、研究の概要を説明して面接の承諾を頂けた方に、筆者が依頼を行った。筆者自身がインタビュアーとなり、2～3時間の個人面接を、本学千葉キャンパスの心理学実験室と池袋サテライトキャンパスの会議室で行った。

面接時の質問内容は、①将来就きたいと思っている職業について。②その実現のためにやっていること。③現在の生活に至った経緯。④現在されているお仕事について。⑤将来について。の5点であった。

【結果・考察】

各事例から得られた結果を検討し、以下の5点についての総合考察を行った。

① 夢追求型フリーターのアイデンティティの形成と変容について

夢追求型フリーターのアイデンティティは、夢の実現に向けての活動を始めたばかりのときは「予定アイデンティティ型」であるが、その後危機を経験し「アイデンティティ達成型」へと変化すると考えられる。そして、危機の解決の仕方によってその後のアイデンティティ・ステータスに違いが生じる可能性があると考えられる。

② 夢追求型フリーターがどのように職業選択を行っているのか

夢を追い始めた当初は「好み」と「魅力」が重視されているが、夢への活動を進めていく中で適性や到達可能性について考えるようになり、徐々に適性や到達可能性を重視した考え方に変化することもあれば、考えた上でも尚「好み」が重視されることもあることが考察された。

③ 夢追求型フリーターは自己の能力をどのように認識しているのか

「自分には何ができ、何ができないのか」を試みるのが不十分な段階で夢へと方向性を決断した可能性があり、活動を進めていく中で「やりたいこと」が「できないこと」へ変化する場合と「やりたいこと」だから「しようと思うこと」へ変化する場合があると考えられる。

④ 夢追求型フリーターとして夢を追い続けられる要因について

挫折や失敗といったアイデンティティの危機に出会いながらも、それでも諦めることができないほど、夢の職業に対しての「好み」があり、夢を実現させたいといった強い気持ちが、夢を追い続けることができる原動力となっていると考えられる。

⑤ 事例から考えられる職業選択における危機

Hershenson のいう「天職」に誰もが会おうためには、「自分には何ができ、何ができないのか」という試みの中で、自分の適性や興味関心について考えるということを出発点として多く経験し、選択の幅を広げた後に、「自分がしようと思うこと」として職業を選択することが重要だと考える。